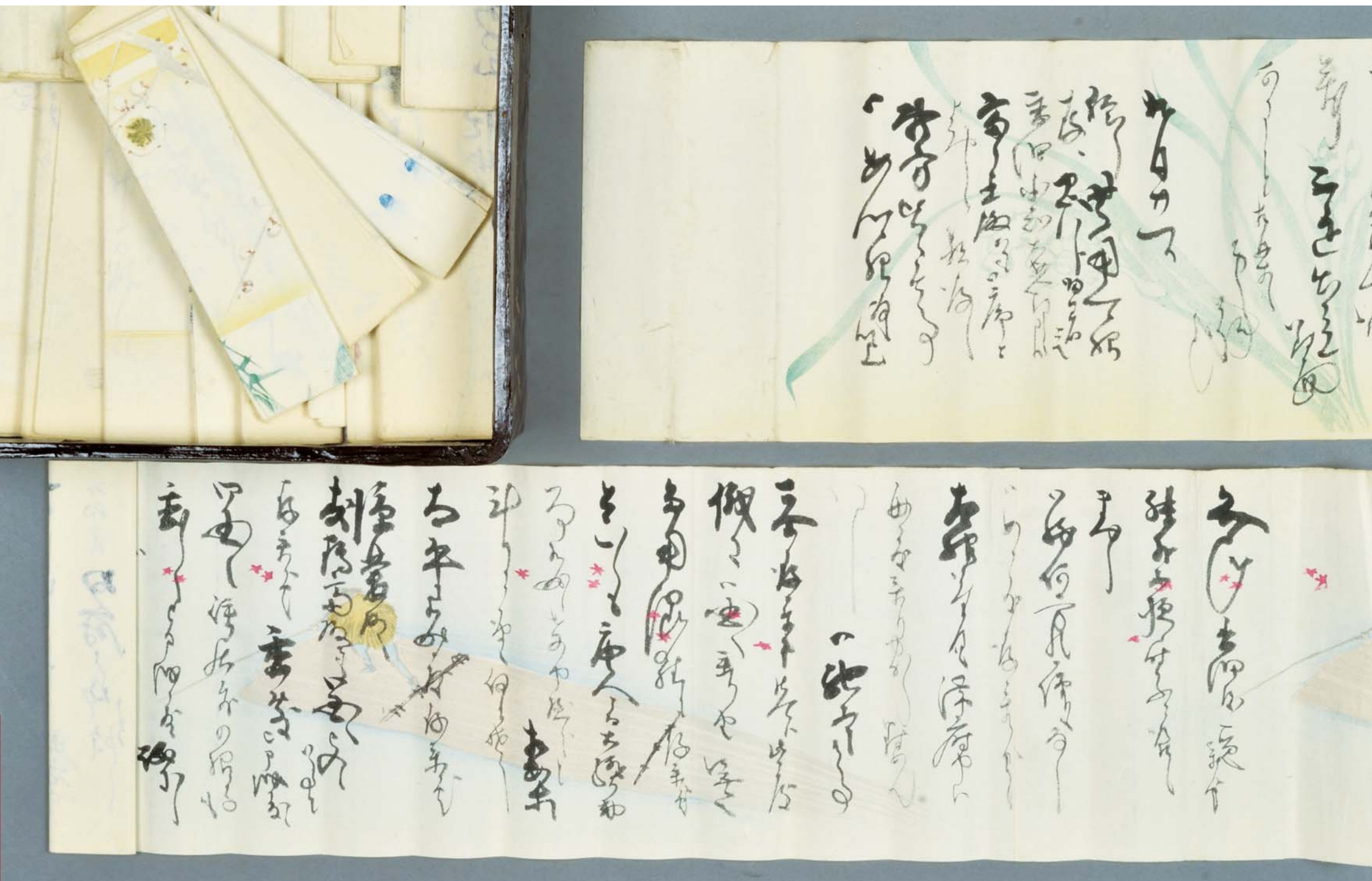


愛娘への手紙

—「名君」鍋島直正の素顔



11月24²⁰²⁰日^火 ~ 1月23²⁰²¹日^土

開館時間: 午前9時30分~午後4時 入館料: 300円(小学生以下は無料)
休館: 日曜・祝日・年末年始(12/27~1/3) ※感染症対策のため、予定が変更となる場合があります。
会場: 徴古館(佐賀市松原2丁目5-22/佐賀中央郵便局 東隣) 主催: 公益財団法人鍋島報効会



徴古館
The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA

☎ 0952-23-4200

🌐 <http://www.nabeshima.or.jp>  

「名君」と言われる10代佐賀藩主鍋島直正公は、長女貢姫(みつひめ)と**13年間**にわたり手紙を交わし続けるなど**家族想いの殿様**でした。愛娘に送った手紙196通をまとめた資料集『愛娘への手紙』の出版記念展として開催する本展では、**19通**をすべて**現代語訳つきで親しみやすく紹介**します。また、佐賀城大奥を束ねた瀧村(直正公の側室・直大公の生母)の小袖を初公開するほか、重箱(貢姫の婚礼調度)、葵紋付き銀製銚子(直正公正室の婚礼調度)などもご覧いただけます。直正公が自らの筆で自らの想いを率直に書き綴った手紙の言葉たちは、**大切な人を想うこと、想いを言葉にすること**の大切さにきっと気づかせてくれることでしょう。



10代佐賀藩主
鍋島直正公(閑叟)
(1814-1871)



天保元年(1830)17歳で藩主となり、財務・教育・軍事・医療などの分野で藩政を刷新。西洋の科学技術を援用した軍事力を背景に佐賀藩を雄藩となした「名君」と謳われますが、素の人物像はこれまであまり知られていませんでした。

直正公の長女
貢姫(松平慈貞院)
(1839-1918)

天保10年(1839)、直正公の第一子として佐賀城で誕生。7歳で江戸に移り、盛姫や筆姫(直正の正室)らの養育を受けました。17歳で川越藩主松平直侯公に嫁ぎましたが、6年後に死別し、慈貞院(じていいん)と名乗りました。



正室
筆姫



長男・川代
直大



側室
瀧村



直大室
駒姫

おもな出品資料

◆貢姫宛て鍋島直正書簡



父から受け取り、**貢姫が大切に保存していた191通**の手紙。直正公が自らの言葉を自筆で書いた手紙の内容はもちろん、料紙には**草花や風景**が刷り表された絵巻紙が数多く用いられており、「愛娘への手紙」らしい直正公の**心遣い**が感じられます。(本展では、191通の中から19通をご紹介します)

◆両家の家紋入りの重箱

貢姫の嫁ぎ先・川越松平家の葵紋と鍋島家の杏葉紋を交互に配した特別なデザインの重箱です。



◆貢姫お手製の細工品

貢姫を側で支え続けた幾山が拝領した作品(個人蔵)。左は箸入、右は懐紙などを入れて携帯するための紙挟(かみばさみ)。



初公開

直正公の側室
瀧村の小袖

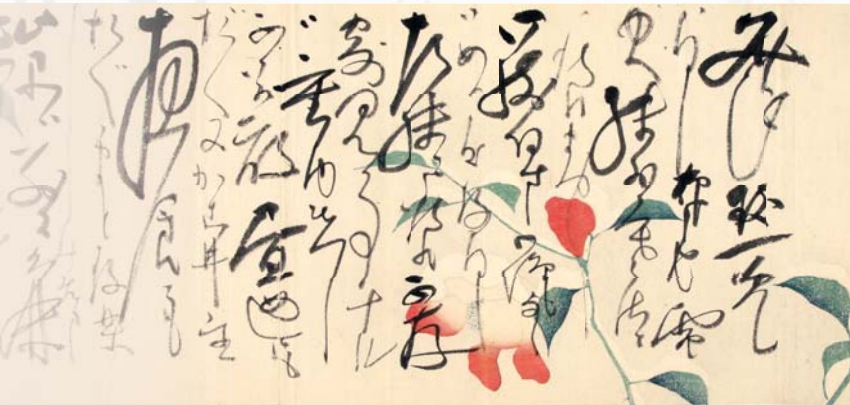
2020年、徴古館(鍋島報効会)にご寄贈いただき、新収蔵資料となりました。



貢姫の嫁ぎ先の川越藩邸は、佐賀藩邸(中屋敷)とお隣同士。直正公が江戸に参勤した折には、藩邸間でも手紙や贈り物がやりとりされていました。お重の中には、どんなお料理が入っていたのでしょうか…

思いも寄らず、**見事な御重**を届けてくれ、すぐ昼飯に食べましたが、また残しておき、夜食にも食べようと**楽しみに**しています。この品は大変粗末なものです、御重のお礼までに差し上げます。

**お隣に住む貢姫からの
お届けもの**



花見のため、桜の名所である小城の桜岡(現在の小城公園の一部)へ。小城鍋島家の養子となっていた次男の欽八郎も一緒に過ごしています。また、直正公の別邸・神野御茶屋(現在の神野公園)にも出かけるなど、春の家族団らんの日々が目に見えます。

昨日は天気も良かったので、瀧村(側室)たちと一緒に**小城へ花見**に出かけました。特に**桜岡の花は満開**でその美しさは見事でした。欽八郎(直虎/直正次男)も大変喜んで、何やかやとお世話してくれ大いに楽しみました。そのまま一泊し、今日七ツ頃(午後四時頃)戻ってきました。帰途には**神野御茶屋**に立ち寄りました。明日はまた神野御茶屋に奥筆姫はじめ十人ほどで出かける予定のため大変取り込んでいます。

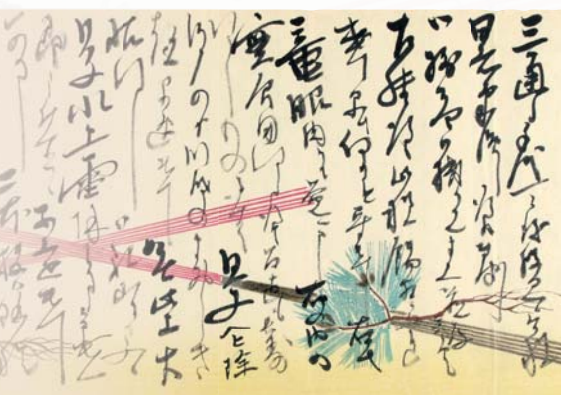
**花盛りの季節に家族で
お花見を楽しむ**



当時珍しかったライチを貢姫に贈っていることにも驚きますが、貢姫からは川越の「蛇除け」(お札)が届けられています。外出の際には蛇を追い払う係がいたほどで、「名君」も蛇はお嫌いだったそうです。愛娘にだからこそ見せる意外な一面です。

三通の手紙、拝読しました。先達て、錫箱に入れて送った品は何かとのお尋ねですが、あれはたしか竜眼肉(ライチ)だったかと覚えています。その実を食べれば百歳までも長寿できるというものです。また**蛇除け**は、江戸のよりも川越のものがよいとのことで**早速に送って下さり、この上なく嬉しく**思いました。お礼厚く申し上げます。また、水上の雷除けことは、すぐ手配するよう指示を出しておきました。

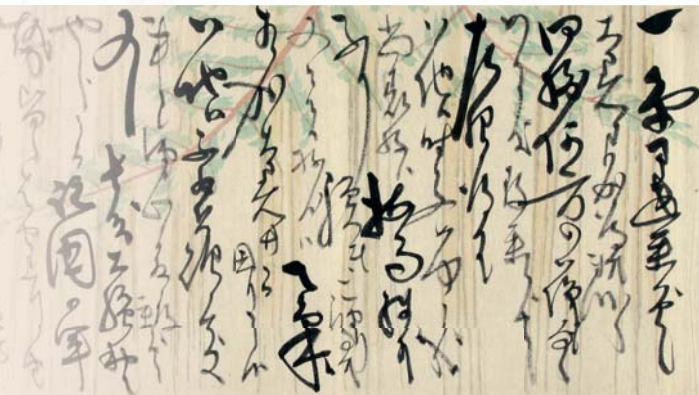
**名君 直正公の
苦手なもの？**



第二次長州征討に佐賀藩も出陣予定というものの、内乱を望まない直正公は「平穩」を願う本心を貢姫に語っています。

また**長州大騒動**が起こるよう、諸藩の軍勢がござって出陣し、公方様(徳川家茂)も広島まで御出馬とのことで、**佐賀藩の軍勢**も近日より繰り出す予定です。来月五日にいいよいよ長州へ攻め込む予定ということですが、どのようになるのでしょうか。また、今回も話だけで終わるのではと思われます。とにかく**平穩**になって欲しいとばかり願っています。

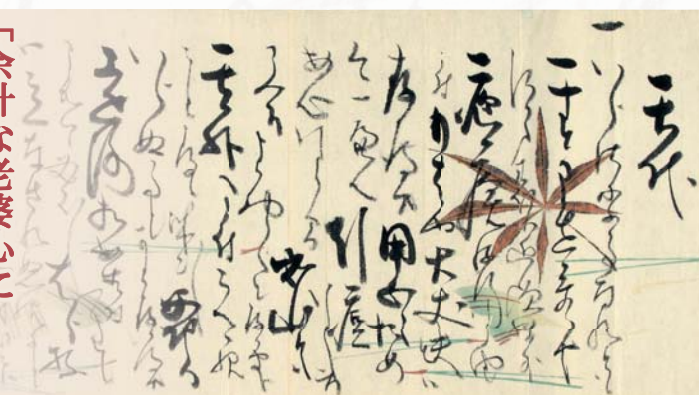
**内乱に佐賀藩出陣
するも、平穩を願う**



遠くに住む貢姫を心配し、「父の余計な老婆心」「腹を立てないで」と気を遣いつつ、予防接種を念のためにもう一度受けてほしいと愛娘への親心がにじみ出ています。

「余計な老婆心に
腹を立てないで」
余計なことですが一言だけお伝えします。江戸表では近頃は特に**疱瘡天然痘**が流行しているそうですから、もう大丈夫とは思いますが、用心のためもう一度**引痘(種痘の接種)**された方が安心です。ご承知ならば、(伊東玄朴に言って植えてもらってください。本当に父の余計な老婆心と思われるでしょうが、遠く離れて心配なため一言お伝えします。決して**腹などお立てにならないで**ください。

**「余計な老婆心に
腹を立てないで」**



愛娘への手紙 —貢姫宛て鍋島直正書簡集—

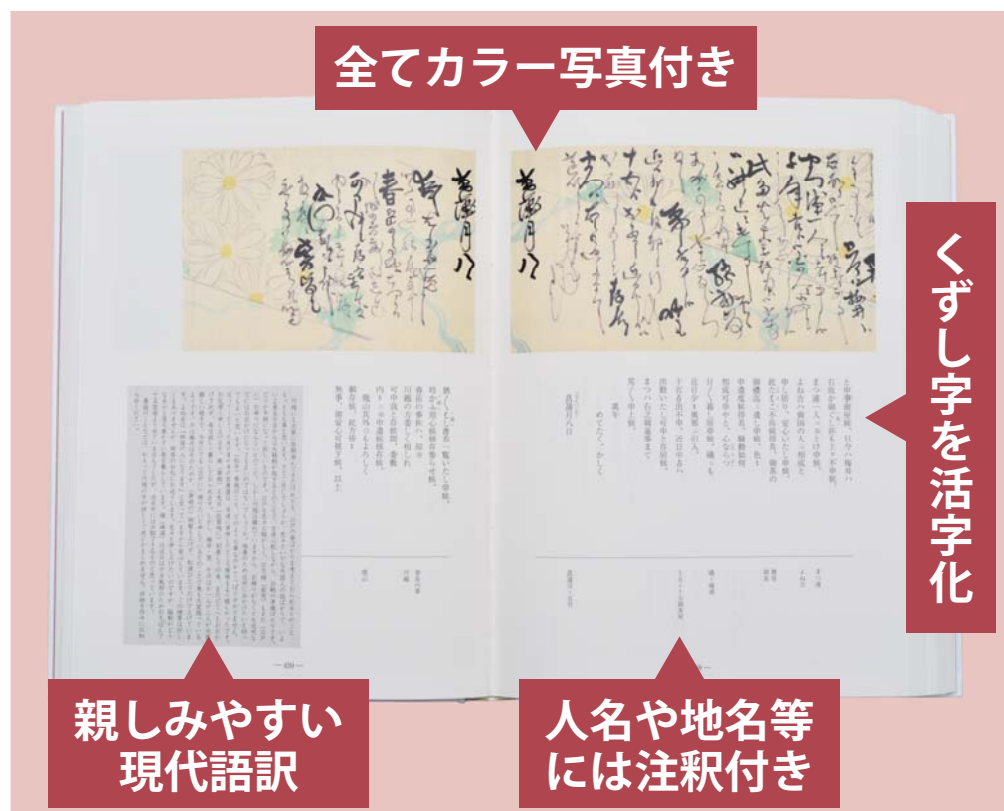


直正公が貢姫に宛てた手紙 191 通のほか、貢姫の住む江戸屋敷にいた老女らへの 5 通(個人蔵)を含む 196 通をまとめた資料集。これまでの「名君」のイメージとは異なる直正公の人物像に迫りうる内容です。

- 25,000 円(税込)
- A4 版 上製本 フルカラー ■ 函入り
- 本編 621 ページ ■ 附録編 77 ページ
- 公益財団法人鍋島報効会 編集・発行

お問合せ・ご注文は、お電話やメール等で受け付けています。(郵送可/送料別途)

☎ 0952-23-4200 ✉ info@nabeshima.or.jp



詳しくは…

内容のサンプル等を web 上でご覧頂けます。「徴古館 図書」で検索、または右の QR コードをカメラで読み取ってアクセスしてください。



<http://www.nabeshima.or.jp/main/4738.html>

会期中のイベント

ご予約・詳細は、お電話やメール、ホームページにて

『愛娘への手紙』出版記念トークイベント

令和3年 1月23日(土) 14:00~16:00(終了時間は予定)
登壇: 大園 隆二郎氏(鍋島報効会 評議員)
礎 美也子氏(元 佐賀県近世史料編纂室員)
藤口 悦子(徴古館 副館長) 富田 紘次(徴古館 主任学芸員)
場所: 徴古館 2階フロア 参加費: 500円(入館料込み)
定員: 40名(予約先着順/感染症対策のため、変更となる場合があります)

事前に
ご予約
ください



【第一部】貢姫に宛てた鍋島直正公の手紙も含めて鍋島家に伝わった資料群全般の伝来や鍋島報効会へのご寄附、徴古館の再開、収蔵庫建設や資料整理などについて40年にわたり携わった藤口副館長がご紹介します。



【第二部】手紙の解説は平成17年に着手されました。解説のきっかけは何だったのか、私が好きな一通とは、くずし字の読み方や年代の特定の仕方などのよもやま話を交え、携わったメンバー自身によるトークイベントです。

鍋島報効会研究助成 第19回研究報告会

予約不要

令和2年 12月19日(土) 13:00~15:00(終了時間は予定) 定員: 当日先着50名
場所: 佐賀商工ビル7階 大会議室 料金: 500円(資料代・企画展観覧料込み)

- ◆ 岡寺 良(九州歴史資料館 技術主査) 「佐賀藩・唐津藩の沿岸防衛に関する考古学的研究」
- ◆ 下高 大輔(熊本市熊本城調査研究センター 文化財保護主任主事) 「肥前名護屋城を中心とした「五畿内同前」考 —九州への織豊城郭石垣導入に関する再検討—」
- ◆ 堀江 潔¹ 眞部 広紀² 岡本 渉³
(佐世保工業高等専門学校基幹教育科 教授¹、同 准教授² 名古屋大学 全学技術センター技術職員³)
「基肄城・帯隈山神籠石・おつば山神籠石の写真測量と三次元モデル化」
- ◆ 高岡 萌(大阪大学大学院文学研究科 日本史学研究室 博士後期課程)
「鹿島鍋島家と鎔造館 —旧藩主家主導の中等教育の研究—」

第12回 香道体験会「初春の香りを楽しむ」

要事前予約



令和3年 1月17日(日) 10時~/11時~/13時~/14時~
場所: 徴古館 2階フロア 定員: 各回15名
お点前: 梶島 禅徹先生(志野流香道九州松隠会)・佐賀香遊会
参加費: 1,700円(企画展もご覧いただけます)

本格的な香木の香りを楽しむことができる、新春にふさわしいイベントです。数種の香りを聞き分ける「組香」を体験。初心者の方もお気軽にどうぞ。ぜひ、雅な遊びを楽しめる装いでお出かけ下さい(お着物でのご来場は大歓迎!)

近くの博物館・美術館情報

佐賀県公文書館
「“さが”のための公共建築—未来を描いた建築家たち—」展
(9月26日~2021年1月11日)

佐賀バルーンミュージアム
「来秋 もう一度、大空へ」特別映像展
(10月30日~11月29日)
※12月は毎週日曜にサンデーキッズ
ワークショップ開催(午前・午後各1回)

佐賀県立博物館・美術館
「折れてひろがる—屏風の世界—」展
(11月28日~2月14日)
「MINIATURE LIFE 展2020
田中達也 見立ての世界」
(11月28日~1月30日)

佐賀城 本丸歴史館
「佐賀の異才を追う」展
(10月23日~12月6日)
「よみがえれ! 佐賀城本丸御殿」展
(2021年1月22日~3月7日)



ご利用案内 |
¥ 300円
(小学生以下は無料)
9:30~16:00
日・祝・年末年始

企画展を4回観覧できる
お得な年間パスカード
販売中!(1枚 1,000円)
共有してもOK!! 2021年3月迄有効
スタンプ4つで一筆箋プレゼント!!

交通アクセス | 無料駐車場あります
長崎自動車道 佐賀大和I.C.から、市街方面へ車で約20分
佐賀駅バスセンターから、市営・昭和・祐徳の各バスで「県庁前」または「佐嘉神社」下車
JR佐賀駅から、県庁方面へ徒歩約20分

お問い合わせ |
✉ info@nabeshima.or.jp
🌐 <http://www.nabeshima.or.jp>
☎ 0952-23-4200 (公益財団法人鍋島報効会)



徴古館
The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA